

平城宮跡第128次発掘調査現地説明会資料

奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部

1981.3.14

本 牛 真

はじめに

奈良国立文化財研究所は、1964年に国道24号バイパス計画に先行する調査以来、東院地区における調査を計8回実施してきた。その結果、平城宮は正方形ではなく、南から $\frac{1}{4}$ の地点で同じ $\frac{1}{4}$ の長さだけ東へはり出していること、そしてその拡張が、平城宮造営の比較的早い時期に行なわれていること等が、明確になつた。『続日本紀』等の奈良時代の文献に散見する「東院」「東宮」とよばれる地域が、おそらくこの東のはり出し部に相当するものと考えられている。

今回の調査区は、北を第22次南(1964)、西を第104次(1977)の各調査区に隣接しており、これらの既調査区をも含めた、東院西辺地区における空間利用の変遷を明らかにすることを目的としている。なお、本調査は1981年1月7日に開始し、現在進行中である。発掘面積は2500㎡である。

以下に現段階で考えうる遺構の変遷と、出土遺物の概略について述べる。

2. 遺 構

これまでに確認された奈良時代の遺構には建物30棟、門1棟、塀6条、溝12条、井戸2基、築地1条、道路1条、奈良時代以降の遺構として建物6棟がある。

これらの遺構を104次調査との関連を考慮して、8時期に区分した。なおこの時期区分及び年代比定は、今後の継続調査により若干の改変はありうる。

時期	年 代	主 要 遺 構	備 考
1	和 銅	SD8600 SD01	平城宮造営当初に排水系路だけが整備される時期。
2	神 亀 天 平 ?	SD32970, SB8578, SD31930 SB02, SA03,	聖武天皇の時代に東院地区が整備され始める時期。 発掘区中央やや北よりで東へまがる 塀がつくられ、その東南部に南北廂付東西棟が建てられる。 22次南の井戸SE3230が併存。

3	天平 ?	SD3297B, SD3193B, SA8577 SB04, SB05, SB06 SB07	整備が進み、東西の空間が一体となる時期、整然とした建物配置で官衙の性格がよい。SE3230が併存。
4	天平勝宝 ?	SD3113, SD3193A SD13, SB08, SB09 SB10, SB11, SB12 SB8640, SD14, SB8632	恭仁宮より平城宮へ遷都後、再整備に着手したころ。自然地形に即した形で水系が存在する。小規模の建物が多い。SE3230はそのまま残存していたと思われる。
5	天平宝字 ?	SD3297A, SB8640 SB8632, SB15, SB16, SB17, SB18, SA5740, SD20, SD21	整備が整つてきた時期で、建物も計画的に配置される。5のSD3113は再び南北のSD3297Bにつけかえられる。
6	神護景雲	SD3109, SA26, SB22, SB23, SA24 SE27B, SD28B, SB25, SD29, SD30	整備が強化され、築地で区画される。築地の内側には、新しく井戸がつくられる。井戸からの排水路は基幹排水SD3109に連続。この時期には、築地から西は路面であつた可能性がある。SE3230は廃絶されている。
		SD3109, SD8620	井古四周の排水路が大型のもの

7	宝龜	SB22, SE27A, SD28A, SB22, SB31 SB32, SD36, SA34, SD35, SX37, SX38, SB33, SA26	につくりかえられる。 SB3109は7を踏襲。2ヶ所で木樋暗渠を経てSD3109に排水される。
8	奈良時代以降	SB39, SB40, SB41, SB42, SB43 SB44	平城上皇による遷都以降の遺構と考えられる。

#### 遺物

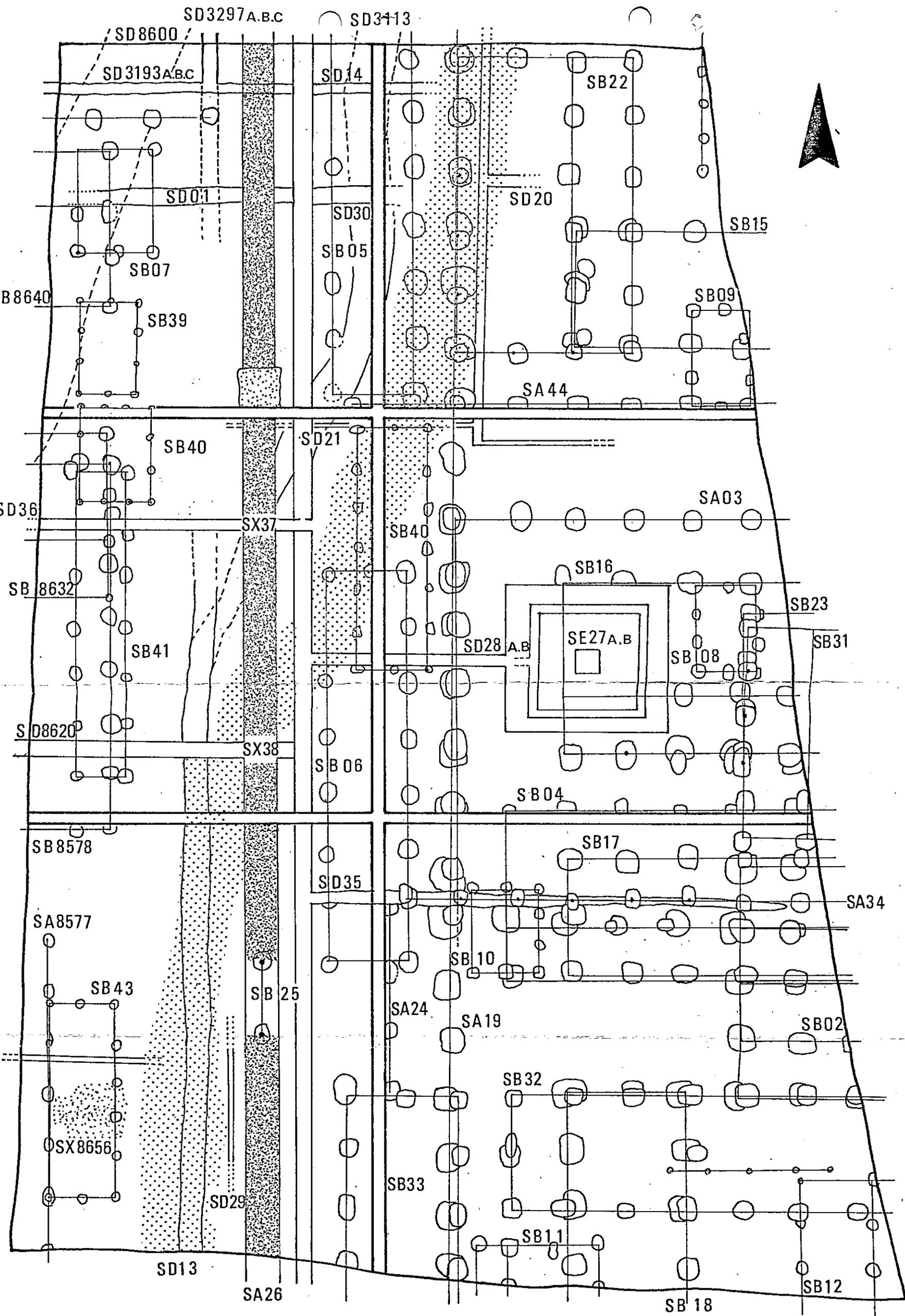
土器 須唐器。土師器ともに多量に出土し、食器類が多い。奈良時代後半のものがほとんどである。SD3109から墨書土器の出土が多い。

瓦葺類 多量に出土し、軒瓦の総点数は約400点で、軒丸瓦では6311, 6282型式、軒平瓦では6663, 6721型式が多い。時期は平城宮Ⅱ期以降のものが圧倒的で、Ⅰ期に属するものは極く少量である。緑釉埴の出土もみられる。

木簡 SD3297, SD3109を中心に30数点出土しており、若狭国からの貢進物付札。返抄（請取）や、SD3229からの「天平十二年」年紀の木簡がある。

#### 井戸SE30

方1.35mで深さ1.1mあり、各辺枠板3枚を井籠組みにしている。井戸周辺には方形石敷の洗場があり、その外周りに石組みの排水路をめぐらせてあり、新旧2時期ある。井戸内からは多量の土器。瓦のほか、和同銭5枚、万年通宝6枚、神功開宝12枚、帯金具の丸柄1、木製車輪の断片と、桃。椎の実、ウリ等の種子類が沢山出土した。



主要遺構図(128次)